

びいあらいぶ Be Alive!

2014年5月2月号

発行元：パルシステム共済生活協同組合連合会
共済事業部『びいあらいぶ』編集委員会

パルシステムの保障 | リニューアル/

<http://www.palsystem-kyosai.coop/>

パルシステムの保障 検索



●次回『びいあらいぶ』は7月2回

消費税が8%に。

いまこそ「わが家のお金」を見直す

消費税率が5%から8%にアップして1カ月が経ちました。

家計への影響を実感されている方も多いのではないのでしょうか。

これからも続く負担増に負けない「家計」をつくるためにも、わが家のお金のあり方を見直してみませんか。

これからの家計の考え方と見直しのポイントを、FP(ファイナンシャルプランナー*)の八ツ井慶子さんにうかがいました。

*FP(ファイナンシャルプランナー)…個人や組織の夢や目標に対して総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を金融、税制、不動産、住宅ローン、生命保険、年金制度などの幅広い範囲で一緒に考え、サポートを行う。

じつは 消費税率アップだけではありません。

実際にお財布から出ていく現金が増えるため、負担増を実感しやすい「消費税率アップ」ですが、じつは、4月の消費税率アップのほかにも、以前からじわじわと家計への負担増は始まっていました。

●国民年金保険料

2004年から、毎年4月に月280円ずつ引き上げが始まっています。この年1回の引き上げは2017年度まで続き、引き上げ開始前は1万3,300円だった1カ月の保険料は、最終的に1万6,900円になる予定です。

●厚生年金

こちらも2004年から保険料率のアップが始まっています。毎年10月に料率を0.354%ずつ上げており、2017年度に上限の18.3%まで引き上げられることになっています。

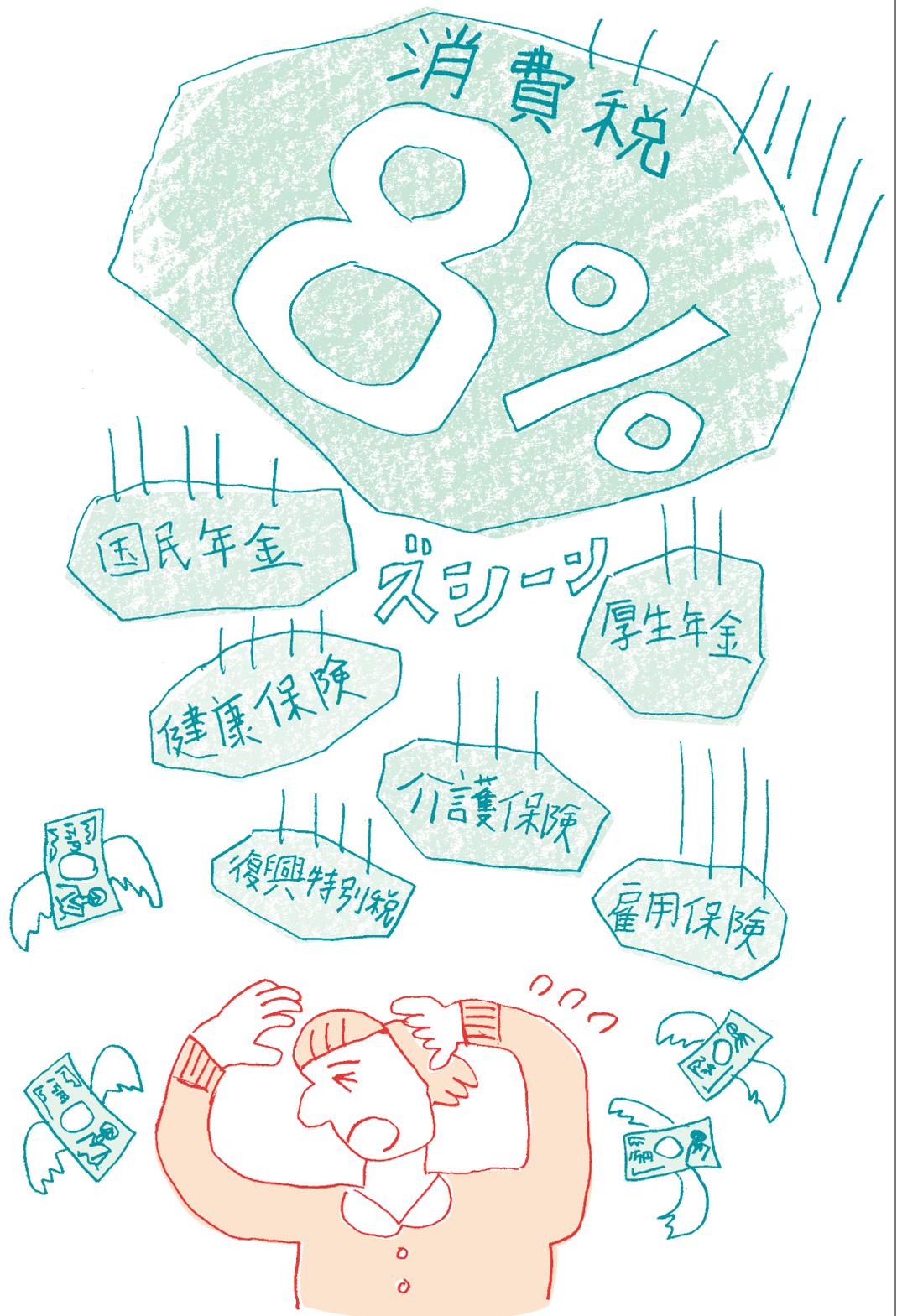
これらの他に、健康保険料、介護保険料、雇用保険料も少しずつ上昇しています。

また、東日本大震災の復興財源を確保するため、2013年から「復興特別税」が導入されました。所得税は2013年～2037年までの期間、所得税額の2.1%の金額を復興特別税として納めることになっているほか、住民税も2014年～2023年の10年間、1年あたり1,000円引き上げられます。

給与明細を 毎月チェックしていますか？

これら社会保険料の引き上げはすでに始まってから数年経っていますが、社会保険料は毎月の給与から天引きされることが多いため、負担増を実感している人は少ないのではないのでしょうか。でも、お給料がなかなか上がらないと感じている人は多いのでは。その理由の一つは各種社会保険料の負担が増えていることにあるのです。

毎月の給与明細を見る際は、支給額だけでなく「何に」「いくら」引かれているのか、隔々までチェックしておきたいですね。



意識を変えるチャンスです。

少子高齢化が本格化するの、これから約30年先といわれています。少なくともそれまで社会保険料の負担増に終わりが見えません。長期にわたる負担増に負けないためにも、早いうちに「強い家計」を作るべくこれからのお金の使い方を見直ししたいものです。負担増をハッキリと実感できる今回の消費税率アップは、逆にお金に対する意識を変える絶好のチャンスです。

「何を削るか」ではなく「何に使うか」

消費税率アップで家計への負担が増えると、「節約しなくては!」と考える人が多いでしょう。でも、節約は言わば「ガマン」。ガマンを続けることは精神的に辛く、これを長期間続けるのは幸せなことではありません。

そこで、考え方をチェンジしてみましょう。

まず、現在の1カ月の支出内容に優先順位をつけます。優先順位はそれぞれの家庭によって違うはずですが、順位が下のほうの費目から「これは本当に必要な出費か」「妥当な金額か」を検討しましょう。家族みんなでワイワイと話し合うのもおすすめです。

家計というものは、入ってきた金額(予算)しか使うことができません。

いまある支出から何を削るかを考えるのではなく、一度、支出項目を白紙にして、「何に」「いくら使うか」を予算に合わせて組み立てるのです。ちょっと大変な作業ですが、一度きちんと組み立てればあとは定期的なチェックと軌道修正で済むので、長期間の負担増に耐えられる「筋肉質な家計」を築くことができます。



毎月必ず支払う費目を見直す

使う金額を見直す際にどの費目を見直すかも重要なポイントです。食費など月々のやりくりによって出費額が変わる費目は、切り詰めると効果がすぐに見えはしますが、長く続けると負担感が積もり精神的にも辛くなってきます。

逆に、「固定費」といわれる毎月決まった金額を支払っているもの、たとえば住宅ローンや保険料、通信費などは一度きちんと内容を見直して支払額が減れば、あとは自動的に毎月出費を抑えていることになるので、精神的な負担も軽く済みます。

出費の額を見直すときは、まずは継続性の高い費目を対象にするのがコツです。



例えば 住宅ローン

毎月の支払額が高額なので、見直しによって効果が出やすい費目です。ローンの組み方によって細かな部分は変わってきますが、ざっくりとしたイメージで、借りてから5年以上経過していて、残りの返済期間が20年以上の場合は借り換えによる効果は出やすいです。返済期間が10年を切っている場合は借り換えよりも繰り上げ返済がおすすめです。

例えば 保障商品

考え方のポイントは2つ。「必要な保障」を「割安な保険」で、自分はどこまでの保障があれば安心できるのか、まずは線引きをしましょう。心配しすぎてもキリがありません。そして、その線引きに合わせて保障商品を選ぶのが基本です。時間を経て家族の年齢や状況が変化すれば、必要な保障の内容も変わっていきます。「すでに見直したから」と安心せず、再度見直してもいいでしょう。



例えば 通信費

電話やインターネット、携帯電話(スマートフォン)など、便利になるにつれ通信費もかさみます。通信各社は短いスパンで新しい料金プランを発表してくるので、使い方に合わせて定期的に見直すことでコストダウンも可能です。料金プランが複雑すぎてわかりづらいときは、「こういうふうに使いたい」という希望をまとめ、通信会社の店舗などで相談してもいいでしょう。

お金を「正しく使う」生活に

電卓を手にしてリビングをざっと見渡してください。そして、目についた「不要な物」の金額を電卓で足していきます。だいたいの金額で大丈夫。ここで重要なのは、この「無駄なお買い物」の総額を見てショックを受けて反省することです。

無駄買いはしないが、必要なものにはお金を使う——、時間はかかるかもしれませんが、そんな「正しいお金の使い方」を身につけて、ストレスの少ない家計運営を目指しましょう。



Profile

ハツ井 慶子さん

生活マネー相談室 代表。
CFP® 認定者。大学卒業後、信用金庫勤務を経て、2001年よりFPとして活動を始める。個人の家計相談を中心に、講演や執筆活動も行っている。近著に「ムダづかい女子が幸せになる38のルール」(かんき出版刊)。

